

ヴェトナム・カンボジア研修体験記



1年C組 宮崎美幸

今回、ベトナム・カンボジア研修に参加させてもらいたくさんの事を学びました。

ベトナムの枯葉剤障害児支援施設では衝撃を受けました。最初は戸惑いましたが、子供達が笑顔で近づいてくれてぎゅーってハグしてくれて、すごく嬉しかったです。言葉は通じないけど心で通じ合えることを知りました。そして、子供達に会って戦争の怖さも知ることができました。

その後訪れたお寺でも、感じる事がたくさんありました。抱っこをさせてもらったダウン症の子がほんとに可愛くて、あんなに可愛い子を捨てないといけない環境があると思うと胸が痛みました。



マルモを踊ったときみんなが笑顔で楽しそうにしてくれて、私にもできることがあるって思ってたって嬉しかったです。

私の知らなかった世界を見て、ベトナムのこと、戦争のこと、もっと知りたいと思いました。

知らないことばかりだったのでこれから勉強していきます！

カンボジアでも大切なことをたくさん学ばせてもらいました。

チェイ小学校で授業の風景を見て、感動しました。ほ

んとに一生懸命勉強していて今までの自分が情けなくなりました。

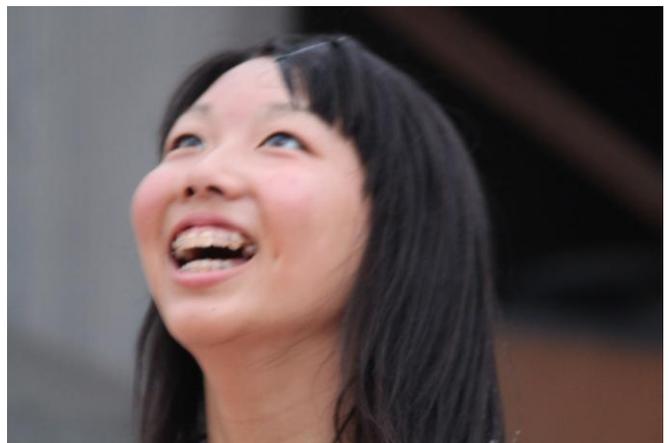
マルモもシャンボン玉もおもいっきり楽しんでくれて心から嬉しかったです。

親がいなかったり、十分にご飯が食べられてなかったり、私より大変な環境なのに、勉強も遊びも笑顔でがんばる姿に胸がいっぱいになりました。

今でもみんなの笑顔が頭から離れません。

チェイ小学校のみんなに出会えてほんとに幸せです。

みんなが教えてくれたことを、この気持ち忘れず、これから頑張ります！



1年G組 塚本香菜



今回の研修で、沢山の支援団体を訪問させていただいた。私は沢山の方々との交流させてもらい、親に捨てられた子ども、家のないお年寄りや、枯葉剤によって障害をもってしまった子ども、学校に行きたくてもいけない子どもなど、今回の沢山の人たちに出会い、いろいろ考えさせられた。直接関わってみると、やっぱりどの人もすごくいい笑顔で力いっぱい生き手いたことに圧倒された。私の何倍も大変な環境のなかでの生活なのに、あたしの何倍も強くてあたしの何倍大きな人に見えた。こんなにもかわいい子どもを平気で捨てる親が、私には、理解できなかったけど、もしかしたら親も一緒にいたかったのかもしれない。そう思うと、親が子どもを捨てないといけない状況を作っている国にも問題があるのかもしれないと思った。日本では親が子を育てるとするのが当たり前的事かもしれない。でも現にその当たり前の事さえも出来ない事態が同じ地球上で起きている。

私はこの研修で自分が今、当たり前になってしまっている事がどれだけ幸せな事なのか、普通に生活でき普通に生きられている、その事がどれほど恵まれているのか・・・そんな事を教えられた気がする。親のありがたみ、かえる場所があること、食べ物、支えてくれる人、学校服、靴、全てが揃っている事がどれだけ幸せか・・・。



沢山教えてくれたこの研修で、貴重な体験をさせていただいて、学んだ事を忘れずにいたいと思った。辛い事があれば地球上には辛くても頑張って生きようとしている人が、沢山いること思いだし笑顔を忘れないように日々生活していきたいと思う。自分が今生きられていること、その幸せを忘れないようにしていきたいと思う。そして、困っている人が近くにいるのなら、手を差し伸べ、助け合っていきたいと思う。普通に生活ができる、この「普通」がどれほどに幸せな事なのか、それを忘れる事がないように、当たり前になってしまわないよう自分なりに、

精一杯に生きていきたいと思う。この貴重な体験をさせてくれた親にも、研修を共にしてきたメンバーの人にも本当に、本当に感謝している。沢山のひとと沢山の素敵な出会いができたことが本当に嬉しい。これからも人との出会いを大切にして、感謝の思いを、絶対に忘れないような人になりたいと思う。

1年H組 小林恒介



今回の研修で、僕はいろいろなことを学びました。

僕たちにとって環境が悪く思えても、カンボジアの子たちは、三食ごはんと安心できる場所があれば良いと思っていました。それを聞いた僕は、自分はどれだけわがままなんだろうと思いました。

そして何より驚いたことは、どこに行っても生きるということがとても嬉しいと思えるような笑顔に出会い、すごく心をうたれました。その笑顔を見たとき「生きるというパワーはこんなにすごいんだ」と感じました。

勉強に関しても、日本語を勉強するのが楽しいと言っているような空気がありました。

日本は豊かで、経済的にもそこまで困ってないから、今回見たことを忘れていた気がしました。だからHRの時間に僕はこの研修で学んだこと、見てきたこの現実をクラスに伝えたいと思います。それが今僕に出来ることだと思います。

本当にこの研修に参加できたことを、本当に感謝しています。先生方をはじめ、白本さんや両親、関わってくださったみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。

僕は今回が初めての海外でした。

同じ空の下でも、全然日本とは違い、少し不思議な感じでした。建物の構造も違うし、布とかも日本とは違いました。一番違ったのが食事でした。

個人的には、あまり口に合わず、最初はしようと思いましたが、少しずつ味にも慣れてきた気がしました。

新鮮な魚介類や名物の物などを食べさせていただき、これも貴重な体験となりました。

最後になりましたが、今回の研修で学んだことを、これからの人生にいかして、自分の考え方も少し変わりたいと思います。

どんなことがこれからあるかは分かりませんが、何を考えるにも同じ地球の中に、満足な生活を出来てない人がいることを、いつも頭のすみに残していたいと思います。

貴重な体験ありがとうございました。



1年L組 小林千夏



私はベトナム・カンボジア研修に参加し、様々なことを学びました。まずはベトナムの枯葉剤障害児支援施設の平和村を訪れ、戦争の傷跡を自分の目で実際に見ました。そして、ベトナム戦争の時に、アメリカ軍が開発した毒薬により障害を持った子供が産まれるという事実を、私は初めて知りました。

何の罪もない子供が戦争により障害を持って生まれ、それが何世代も続いていくということに、私はとても心が痛みました。その後、私は貧しい人々が暮らすお寺を訪れ、発展途上国の姿を見たような気がします。とても小さな赤ちゃんが、そこにはたくさんいました。捨てられた子が多いそうです。それを聞き、世界には子供が欲しくてもそれを実現することが出来ない人々がいる中で、お腹を痛めて産んだ子を捨てなくてはならない状況になってしまうということは、本当に悲しい現実だと思いました。そして、その後はカンボジアのチェイ小学校を訪れました。

そこにはたくさんの子供たちがいて、どの子に手を振っても、必ず笑顔で振り返ってくれました。その笑顔がとっても可愛くて、私はその子たちからたくさんの元気や勇気をもらいました。授業中は全員が大きな声を出して一生懸命勉強している姿を見て、私ももっと真剣に授業を受け、毎日学校に通えることがどれだけ幸せなことか、しっかりと考えなければならぬと思いました。最後に子供たちが『生きてこそ』を歌ってくれた時に、いろいろな感情がこみ上げて来て、一気に涙が溢れました。

こんなに小さい子供たちがどんな時も笑っているんだから、私もどんな時も笑っていようと思いました。そして、今後もずっと笑顔を忘れないで過ごして欲しいなと思いました。その後は、NCCCを訪れました。その子たちと一緒に遊んだり、踊ったりしました。どの子も人懐こく、笑顔で近づいて来てくれました。言葉は分からなくても、一緒にいるだけ

で本当に楽しい時間を過ごすことが出来ました。

この研修で、私は改めて笑顔でいることの大切さを感じました。そして、学校に通えることや、自分の家があること、毎日三食食べられることなど、全てが幸せなことだと感じました。今後は何事も真剣に、一生懸命しようと思います。

1年L組 水藤瑞穂

初のベトナムとカンボジア、そして発展途上国。多くのものを見、多くのことを聞き、多くのことを学びました。



まず最初に、自分で変わったなと思うのが、食べ物のことです。私は食べ物の好き嫌いがかなり多く、好きなものだけ選んで食べるが多かったのですが、今回の研修で知らない食べ物にたくさん出会い、「これ何だろう？まあとりあえず食べてみようかな」と思えるようになったのです。以前の自分からしてみれば信じられないようなことなのですが、ただ、パクチーはもう食べたくないです。

またベトナム語やクメール語の簡単な挨拶「こんにちは」や「ありがとう」を覚えたり、今まで交流のなかった先輩方と仲良くなれたり、新たな交流の機会ともなりました。



そして何より大きな経験となったのが、チェイ小学校とチャイルドケアセンターで子どもたちと過ごした思い出です。言葉はほとんどわからないながらも折り紙を折ったり、カレーを作ったりと、一緒に楽しく過ごすことができました。「かわいそう」と言われることが多い子たちではありますが、日本のお金持ちよりもずっときれいに笑うと思います。幸福は貧富では決まらないんだなと実感することができ、私の価値観は大きく変わりました。

みんなとても強く優しい子たちばかりで、支援物資を渡し、折り紙を教え、「してあげる」ために行ったはずが、気がつけば私が元気をもらっていました。



私は来年、約1年の留学をします。そこで必要な「挑戦する勇気」を、今回の研修で学びました。外国で1週間を過ごしたという貴重な体験や、わかりやすく教えていただいたアジアの歴史、そして今はまだなんでもないように思える些細な経験。これらすべてを私のこれからに生かし、世界に目を向け、様々なことを学びながら生きていきたいと思います。

最後に、この研修でお世話になった両親をはじめ全ての人に、感謝したいと思います。ありがとうございます。

1年L組 段城里佳



私はベトナム・カンボジア研修旅行に行って、思ったことが4つあります。

1つ目は枯葉剤にかかっている子供たちについてです。

枯葉剤障害児支援施設に行ったら子供たちを見たときに3世代前の戦争の時に作られたものなのに、今もまだ影響が残っているのはとても悲しいことだなと思いました。

それでも自分一人で生きていこうと裁縫の技術を身につけたりしているのはすごいなと思いました。

2つ目はストリートチルドレン自立支援団体を訪問したときです。

お金の問題で子供を育てることが出来なかったり、親に捨てられた子供たちがたくさんいるところでした。エイズにかかっている子もいました。

ホームレスの方や老人の方もいらっちゃって、子供たちと合わせて全員で200人もの方がこの施設にいらっやるそうです。1か月にお米3トン、費用が40万円もするらしく、とても大変だなと思いました。

そう考えると、私たちは本当に恵まれているなと思いました。毎日3食ご飯も食べられるし、お風呂も入れるし、学校にも行けるし本当に幸せなことだなと思いました。



3つ目はチェイ小学校の日本語学校に訪れたときのことです。

とても小さい子から大きい子まで幅広い年代の子が日本語を一生懸命に勉強していました。

その後シャボン玉をしたり、かぶとを折ったり、新聞でエコバッグを作ったりしました。

マルマル・モリモリも一緒に踊りました。みんなずっと笑顔が絶えなかったです。すごく楽しそうに踊って



くれたり一緒に遊んだりしました。最後にみんなが日本語でKiroroさんの「生きてこそ」を歌ってくれた時に涙が止まりませんでした。すごく頑張っているんだとか、楽しそうだなとか、その時感じた思いが全部あふれてきました。

4つ目はチャイルドケアセンターに訪れたときです。

ここには2歳の女の子がいるのですが、この子にはちゃんとお母さんもお父さんがいます。しかし、自分からこのチャイルドケアセンターに行きたいと言ったそうです。たまに、お母さんやお父さんに会いたく

なって泣くことがあるらしいのですが、ちゃんと毎日3食ご飯が食べたいというのと、将来学校に行って勉強がしたいという気持ちが強くここに残っているのです。私はこの話が一番残酷な話だと思いました。

この7日間でいろいろなことを学びました。枯葉剤のことも初めて知りましたし、貧富の差の激しさも初めて見ました。

私たちにできることは少ないけど、その小さな行動もなにかにつながればいいなと思います。

1年L組 向井花織



私はこのベトナム・カンボジア研修を終えてみて、自分の中の価値観が変化し、視野が広がったなと感じました。

ベトナムの平和村では、枯葉剤被害を受けた子供たちがたくさん生活していました。初めは接し方や様子など、わからないことだらけだったので不安でいっぱいでした。しかし実際訪問してみると、みんなの笑顔に、ただただ癒されるだけでした。何の罪もない子供達がこうやって困難な生活を強いられなければいけないと思うと、正直つらかったですが、あんなに素直に笑顔な子供たちがいることに、私はとても元気づけられました。

それはチェイ小学校やNCCCの子供たちも一緒だなと思いました。親や家族がいなくても自分たちの力で必死に今日という日を生きている子供たちの姿は、今の自分にはない芯の強さや心の強さがあると感じました。今回少しでも力になれたことが本当に嬉しかったです。

そして私の一番心に残っているのは、アンコールワットにいた物売りの子供たちです。たった1ドルでプレスレットや絵葉書を買っている子供たちの姿は、とても見ていて心が痛かったです。これは、現地に行ったからこそわかることだと思いました。1ドルのために、1日を生き延びるためのお金





を、まだ年が小さいながらも頑張って稼いでいる姿はとてもけなげで、その子達みんなを救うことができない自分の無力さにも気づかされました。

私は今回の研修で、発展途上国の現状を間近で見ることができ、本当に良かったと思っています。日本で生活している私たちがいかに恵まれていて、いかに幸せかということ改めて感じる事ができ、また、こういった貧困問題などにどう対応していくべきか、これから考えていきかけになりました。近い将来、私もこのような人たちの手助けになり、みんながもっと笑顔で暮らせる世界にしていきたい

と思いました。

今回このような体験をさせてくれた両親や家族に感謝し、この経験を今後の学習につなげていきたいと思います。本当にこの7日間、いい思い出がたくさんできました。

1年M組 駒井 理乃



旅行初日、最初に驚いたのはクラクションがとても頻繁になっていて、日本では考えられないほどの量のバイクが走っていました。日本は、事故が多少はあっても、交通機関が整っていると実感しました。

ベトナムの枯れ葉剤の被害を受けた子ども達のいる平和村を訪れる前、その研修で初めてのボランティアだったので、少し不安でした。

しかし、部屋の中に入れてもらってシャボン玉のやり方をジェスチャーで教えてあげると、すぐにとっても楽しそうに吹いてくれました。言葉は通じなくても一緒に同じ事ができて感動しました。何も知らない子ども達が枯れ葉剤の影響を受けていて、未だに影響を受け続けているということがとても口惜しく感じました。

カンボジアはベトナムよりも少し蒸し暑かったです。カンボジアのチェイ小学校のボランティアでは、最初は日本語の授業の見学をしました。喜んで一生懸命勉強する姿を見て驚きま

した。とてもいいとは言えない環境の中で小さい子が将来のために勉強している姿を見て自分も頑張らなくてはならないと逆に思われました。次に子ども達と一緒に遊びました。その時、その子ども達は、とても澄んだ笑顔で笑いかけてくれました。私たちがボランティアをしようとしていたのにもかかわらず、私たちの方がもっとたくさんのもをもらったように思いました。



最後に詠ってくれた歌は、とても上手でたくさん練習してくれたんだと嬉しく思いました。

私は日本人なので、ボランティアとして行った先の子供達と入れ替わることはできませんが、自分にできる精一杯のことをして、少しでも一生懸命生きている人々の手助けができればいいなと思いました。



1年V組 高橋尚子



最初にこの研修へ参加することを決めたのは、本当に軽い気持ちでした。

「どうしても行きたい」と親に言うことも、カンボジアの子供たちと仲良くなろう、という思いもそこまで持っていたわけではありません。

すごく消極的な考えでした。

そんな私の考えが覆された時、というのはこの研修で大きく2つに分けられます。



1つ目は、ハロン湾・トンレサップ湖・アンコールワット・アンコールトム等の観光の時です。そこでは、日本だと幼稚園に通っているような子供までがお金を求めて品物を売りに来ました。ハロン湾とトンレサップ湖では舟から舟に飛び移り、ジュースや果物を売りに来ていました。アンコールワットの近くなどでは音で私たちの興味を引き、ブレスレット



や絵はがきを売る子もいました。1つ売っても1ドルか2ドルくらいにしかない物を一生懸命売っていた彼らのことを思い出すと、今その時に出くわしたかのように胸が痛みます。

2つ目は、チェイ小学校とチャイルドケアセンター訪問の時です。チェイ小学校で、子供たちは本当に一生懸命日本語を勉強していました。分からない言葉があってもその場で覚えようと必死でした。なぜなら、それがそのまま将来へ続く可能性を広げるからです。

お金がなかったり、親がいなかったりする子供たちが歌った「生きてこそ」を聞いた時、私の目からは涙がこぼれました。

その歌には重みがあって、私には想像もつかないほどつらい思いをしてきたことが伝わってきました。

それでも、授業が終わったあと一緒に遊んだ子供たちは、皆笑顔になってくれました。

「楽しかった」と言っていたと、次の日先生が教えてくれました。

どんなにつらい現実をもっていても、それを感じさせないほどの笑顔を見せてくれた子供たちを私はとてもすごいと思います、尊敬します。どんな形でもいい、あの子たちの顔から笑顔が失われないように祈ります。

ほんの少しでも長い間、何かを楽しんでいられるように…。私にはそんな夢ができました。

そんな夢を叶えることができるような人間になりたい、と思いました。

2年B組 河原 希

今回の研修で私はたくさんの事を学ぶ事ができた。たくさんあるけど、一番心に残っているのは平和村やお寺の人たちとの交流の事。最初平和村へ行く前は不安でいっぱいだった。先生たちが「皆はショックをうけるかも」と言っていたのを聞いていたし、私自身枯れ葉剤について全く知らなかったから。それに見た目とかも、私は気にしてしまうだろうし。だけど、実際に一緒にシャボン玉をしたり、折り紙したりと遊べば見た目も言葉も関係なかった。



私が笑えば向こうも笑顔になってくれたし、向こうが笑えば私も楽しかった。腕を広げたら抱きついてきてくれたり、ボールを貸してくれて一緒に遊んだりマルモを踊って一緒にはしゃいだり。特にお寺で踊ったマルモが一番だったと思う。お寺にいた人たちは皆家族がいないし、生まれてからまだ二ヶ月ぐらいの子もいた。私達より幼い年齢で私達には考えられないような経験をしている人もいたと思う。それでも私達を温かく迎えてくれたし、マルモを踊ればリズムにのってくれた。自分達の踊りで笑顔になってくれたらいいな、って考えながら踊ったら本当に皆が笑顔になってくれて、すごく嬉しかった。こっちも楽しくて自然と笑顔になれた。昔は何かを学ぶ度に「大人になったら世界を変えたい」とか感想を言っていたけどそれは本当に遠くて難しい事だと実感させられた。だけど私達のような高校生にも人を笑顔にすることはできるんだと分かって本当に嬉しかった。マルモを踊ってすごく盛り上がり、皆が笑顔になったのを見て、「毎日昼休みに練習して良かったな」って思えて少し涙腺が危なかった。



私がこの研修を通して学べたのは笑顔の大切さだった。皆で笑い合える事はすごく幸せな事だと改めて気づいた。笑顔に国なんて関係ないし笑顔で溢れて皆が元気になれる事もまた、改めて分かった。だから私はこれからも毎日笑顔でいようと決めた。



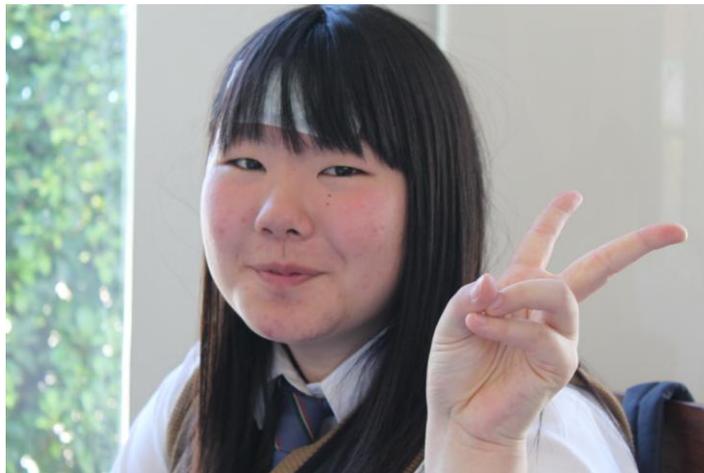
この研修でこのメンバーと出会えて、このメンバーと準備、練習して踊りも何もかも全部成功できて本当に良かった。このメンバーとの関係は研修だけで終わらせたくないな、と思うぐらい自分は良い仲間に出会えた。この研修に行かせてくれた親や家族、先生方に感謝の気持ちを忘れず、そしてベトナム、カンボジアの人たちの温かさも忘れずこれからの学校生活や日々の生活を過ごしていきたい。自分がどれだけ恵まれているかが分かったのでも、少しの事にも感謝の気持ちを感じられるようになりたい。本当にこの仲間とこの研修に行けて良かった。本当にありがとうございました。

2年D組 岡本香織



私が今回このベトナム・カンボジア研修に参加して感じたことは、[普通に生活できることの幸せ]です。当たり前のことかもしれないけれど、私はこのことを1番感じ、改めて自分がどれだけ幸せな生活を送っていたかを痛感することが出来ました。この研修に参加する前も世界にはその日を生き抜くので必死な人たちが数多くいることはわかってはいたけど、どこか自分の中で[発展途上国だから仕方ないこと]などと目を背けていた部分がありました。

しかしこの研修旅行に参加して直接現地の様子や、現地の人たちの生活を肌で感じることによって自分の贅沢さを思い知らされました。私たちにとってはたったの1ドルかもしれないけれど、ベトナムやカンボジアの人たちにとっても1ドルはその日を生き抜くための1ドルでした。それを手に入れる為に、言い換えれば生きていく為に小さい子どもたちが私たち観光客に物を売りにくる姿が今でも忘れられません。



私が感じたことはまだあります。それは[笑顔の大切さです]。私は正直この研修旅行の前まで不安でいっぱいでした。ベトナムやカンボジアでの交流があるけれど本当にちゃんと交流出来るのか心配でした。ベトナムの交流では枯れ葉剤によって被害を受けた子どもたちのいる平和村を訪れ交流しました。正直この施設を訪れる前に先生たちが言っていた『もしかしたらショッキングな光景が目に入るかもしれない。』という言葉がアタマから

離れず、自分もしそのような光景を目の前にしたとき、ちゃんと交流出来るのか、普通の人と同じように接してあげられるのか、不安で、不安で仕方ありませんでした。一歩引いて見てみまう自分がいそうですごく怖くもありました。でも平和村に着いて平和村の子どもたちをみて、その不安はすぐに消えました。みんなが会



ったこともない私たちを笑顔で出迎えてくれて本当に心がホッとしました。あたしが自分から声をかけられないでいたら平和村の子どもたちからスキンシップしてきてくれて、本当に嬉しかったです。交流時間も一緒に折り紙をして遊んだりシャボン玉をして遊んだり、始めて会ったとは思えないほど楽しい時間を過ごすことが出来ました。平和村を訪れたことにより、自分が少し大人になれたような気がしました。

平和村の次に訪れたお寺では約200人の子どもと老人が住んでいました。拾われてからまだ5日しかたっていない子もいました。このお寺で働く人は本当にすごいなと思いました。マルモのダンスではお寺の人が笑顔になってくれているのを見て本当に嬉しかったし、幸せな気持ちになりました。お寺の人たちの笑顔を見ると自然と私も笑顔になれました。カンボジアで訪れたチェイ小学校では授業見学をさせていただきました。その様子は本当にすごかったです。みんな難しい日本語を一生懸命読んでいました。きっとぜんぜん意味を分からず読んでいた子もいると思います。でもいつか分かるように頑張ろう。という気持ちが伝わってくるほど大きな声を出して、何度も何度も繰り返し勉強していました。その姿は本当に輝いていました。交流での折り紙をする時間も言葉が通じないはずなのに分かり合えたり不思議な時間を過ごすことが出来ました。マルモのダンスと一緒に踊った時もみんな笑顔で踊っていて、それをみて私もさらに笑顔になれました。最後に小学校の子どもたちが歌ってくれた kiroro の[生きてこそ]は本当に感動しました。言葉に表すことが難しいくらい不思議な気持ちになって自然と涙が溢れ出しました。みんなが[私たちが支援しにきたはずなのに、逆にみんなの笑顔や一生懸命な姿に元気や勇気をもらった。]と言っていたように、本当にたくさんの元気や勇気をもらいました。私たちの姿を見て少しでも小学校の子どもたちも同じことを思ってくれていたら嬉しいなと思っています。

NCCC では親がいなかったり、親から虐待を受けた子ども、親と暮らしたくても食べ物がなく生きていけないような子どもと一緒に暮らしていました。しかし、NCCC の子どもたちもみんな笑顔が絶えませんでした。小さい子どもを抱っこするときゆーって強く抱きしめてくれて、やっぱり寂しい部分もたくさんあるんだろうなと実感しました。1番下の子がお母さんの元ではなくNCCC にいることを選んだのも毎日食べられる幸せを選んだから。住むところがある幸せを小さいながらも感じているからなんだなと思いました。

今回の研修旅行で私たちにとって今まで当たり前だったことが、本当に幸せなことなんだと改めて認識出来ました。私たちは日本という恵まれた国に生まれてきた以上、ベトナムやカンボジアを始めとする国の人たちと変わってあげられることは出来ないけれど、何か私たちにも出来ることがある気がします。例えば今回行った支援物資を集めてその物資を、必要としている人に支援したりすること。自分一人ではできないことでもみんなで声をかけあえば、たくさんの物資が集まり、たくさんの人たちの少しでも役に立てる気がします。

決して私たちとは幸せの度合いが一緒ではないけれど、少しでもベトナムやカンボジアのような国の人たちに笑顔になってもらうために、今以上に笑顔になってもらうために何か自分に出来ることはないか考えながら過ごしたいと思いました。

このベトナム・カンボジア研修旅に参加して感じた、生きる幸せ。食べられる幸せ。笑顔でいれる幸せ。を十分に噛み締めてこれから過ごしていきたいと思っています。現地の人たちが目の前の現実と向き合って一生懸命過ごしているように、私もまずは目の前にある自分のすべきことを一生懸命取り組みたいと思います。ベトナムやカンボジアの子どもたちに恥じないように一生懸命頑張っていきたいと思っています。また絶対ベトナム・カンボジアを訪問して、また交流が出来たらなと思っています。今回この研修旅行に参加させてくれた親にも感謝して、毎日を無駄なく過ごしていきます！



2年D組 北野七海



私は、この研修旅行を通じて世界で起きている問題、発展途上国の生活など沢山のことを学びました。

まず、ハロン湾見学では船に乗っていると小さい子どもが船に乗ってきてものを売りに来てこの子達は学校も行けず1日1日の生活をするためにこうやって観光客に売りに来るのだと思うと何ともいえない感情でした。

ベトナム戦争で起きた枯葉剤の影響で障害をもった子供たちと半日接してみて正直、一

瞬関わるのが怖いつて思ってしまう部分がありました。でも、こんな貴重な体験はできないと思ったし、この子達はなりたくてなった訳ではないと思うと一瞬でも怖いつて思った自分が小さいと感じました。

先進国で平和な環境で生まれた自分がどれだけのものなのかということも感じました。

ストリートチルドレン自立支援団体に行き、最小年齢では生後2ヶ月の赤ちゃん和最高年齢90歳以上の方が生活されているなかで、小さい子どもが赤ちゃんの世話をしていたり、生後9ヶ月の赤ちゃんが泣きながらミルクを飲んでる姿には衝撃的でした。

私が生まれて親の母乳をもらい、愛情に包まれて大切に今まで育てられた環境とは違う環境を見てこんなことが私の知らないかったところで普通に起きているのだと思いました。エイズの子がいたり、子供たち7人に家を追い出されたお父さんがいたり、本当に残酷だと思いました。



チェイ小学校では半日、日本語教室に通う子ども達と勉強したり遊んだりして本当に一生懸命に日本語を習うみんなになんとも言えませんでした。

シャボン玉をしてみんな楽しそうに遊んでくれて表情豊かだと思いました。マルモのダンスも何回も踊って私自身も楽しかったです。

最後に、日本語教室の子達がキロロの「生きてこそ」の意味を知っていながら、私たちに歌ってくれました。親からの暴力をうけた子達や親が亡くなっている子など他にも様々な思いを抱えた子が歌ってくれた歌声に涙しか出なかったです。

それは、決して可哀想とか同情とかではなく、強く生きている子たちに胸を打たれて涙が止まりませんでした。

チャイルドケアセンターでは、3つのグループに分かれて作業をしました。私のグループは草取りだったので草を取りながら「毎日草取りしてるの？」って問いかけたら「毎日してる」って言ってるのを聞いて私たちが今できるのは少しでも NCCC の草を取って少しでも綺麗にして帰りたいと思い初めは勢いよく取っていて後半ぐらいから最年少の子が「抱っこ」って感じになって結局あまり取れなくてそれが少し心残りでもあります。

夜のパーティーもみんな仲良く楽しめて本当にいい交流ができてよかったです。私が、この日本語教室と NCCC を訪れて強く思ったのは私が大きくなってもう一度この研修旅行で出会った子達に会いに行きたいと思いました。



この7日間の体験を通じて、私が今後どう過ごして行くべきか考えた結果、今ある生活を決して当たり前とは思ってはいけないということもだけど、それ以上に今私に与えられている環境を活かして、すべてに全力で取り組むことがまず1番に自分ができることだと思いました。

お互いに頑張ろうと約束した子達がいるのでこの7日間がよかったですだけでは終わらせられないし、今自分の1番近くにある大きな目標に達成できるように頑張りたいです。

今までは、ただ単に人の話やテレビを見て、軽く私の生活を振り返ってありがたさを知ってるつもりでした。しかし実際何も見てないし感じてもないのに綺麗ごと並べて発していたのかもしれないと思いました。今回の研修旅行を通して、身体全体でいろんなことを感じて見て、綺麗ごとで並べられる問題でないと思いました。



どの環境がよくてなんか、人それぞれなので決めつけられないと思いました。

また、この7日間の体験を常に心に思って生活していくことで研修旅行に行く前よりも、行ったあとの生活が少しでも自分の中で変えられる生活をしていきたいと思っています。

そして、両親・家族には本当に感謝という言葉だけでは足りないくらいけど、本当に感謝しているので、これからはもっと両親・家族を大事にして、すぐに甘えるだけでなく自分のことは自分でやるようにしたいと思いました。

そして、最後になりましたがこの貴重な7日間が過ごせたのも、両親が高い金額を払って行かせてくれるという環境があって、こういう企画が学校にあって、先生方がいて、21人のメンバーがいたからだと思います。

本当に1日1日が濃くて思い出深くて良い体験が出来ました。

2年D組 庫元佐依



私にとっては初めての海外が、このベトナム・カンボジア研修でした。この研修には、自分から親に参加したいと頼んだのですが、発展途上国に行くこと、普通の旅行ではないこと、頭の中では理解していたつもりだったけれど正直、不安だらけでした。

なぜかと言うと、枯葉剤障害児支援施設の子供たちやストリートチルドレン、チェイ小学校の子供たちとふれあって、今の私に何かできる事があるのか分からなかったからです。しかし、行ってよかったと思います。

どれも印象深くて選ぶのが難しいのですが強いてあげるならストリートチルドレンを支援しているお寺で出

会った赤ちゃんやチェイ小学校の子供たちとの出会いは、心に受けた衝撃がとても大きかったです。

まず、最初にお寺ではたくさんの赤ちゃんや、幼い子供たちに出会いました。話によると生後たった5日でお寺に引き取られた赤ちゃんもいると聞き、何とも言えない気持ちになりました。生活している部屋を見学したとき、薄暗くて狭い所で泣きながら1人でミルクを飲んでいる赤ちゃんを見ました。通訳さんに何歳ですか、と聞くと生後9ヶ月くらいと教えてくれました。



生後9ヶ月の赤ちゃんが自分で哺乳瓶をもってミルクを飲んでいる姿を見て、本当に親がいなくて自分で飲まないといけない状況にこの子は、たった生後9ヶ月でなってしまったと思うと可哀想という気持ちではなく、胸が張り裂けそうな気持ちになりました。私が抱っこしてミルクをあげるとちょっと安心したのか泣き止んでくれました。

でも、私がずっと抱っこしてあげられるわけでもないし、私が育てれるわけでもないの、ただただ、このような事が当たり前のようになっている現状があるという事と、何もできない自分の無力さを感じました。



次に、チェイ小学校の子供たちと出会った事です。最初、授業風景を見学させていただきました。普通だったら知らない人がたくさん教室に入ってきて写真を撮ったりされたら周りをキョロキョロ見たり落ち着かなくなると思うのですが、1人も周りを気にすることなく先生が発音する日本語を全員大きな声で何回も何回も真似て発音していました。

正直言うと私はあんなに集中して授業を受けた事がないと思います。ずっとみんな眩しいくらい笑顔で、目が合うだけで笑ってくれました。名前を教えると『サエサエ』と、たくさん呼んでくれました。最後、お別れの前に子供たちみんながプレゼントとして、『生きてこそ』を歌ってくれました。訳もわからなく涙が溢れて止まりませんでした。歌詞の意味も分かっていると聞き、親がいない子や貧しくて毎日苦しい思いをしている子も一生懸命歌ってくれていると思うと何とも言えませんでした。

自分はこんなに恵まれている所に生まれたの

か不思議に感じました。

この経験から私には世界にある格差をなくすことや、今この現状を変えることはできないし、日本に帰っていつもの生活に戻ると、きっと嫌いな食べ物を残したり、欲しいものを買ったり、わがままを言うと思います。

けれど、私たちとは全く違う環境で一生懸命頑張っている子が世界にいることを絶対に忘れてはいけないと感じました。

生きてこそ広がってつながる、全てのことに感謝したい。

これがこの研修を通して私が感じたことです。



2年D組 伊達沙希



私が今回、ベトナム・カンボジア研修に参加して心に残っていることは2つあります。

1つは、チェイ小学校の授業見学です。小さい子どもたちが難しい日本語をあんなに上手に話たり出来るとは思いませんでした。対話の時も私の意味のわからない日本語にも耳をかたむけてくれて自分が想像していた以上で驚きを隠せませんでした。一緒に折り紙で遊んだ時も私の片言の英語に耳をかたむけてくれて鶴を完成させた時の満面の笑顔は忘れられない出来事です。最後に歌ってくれた「生きてこそ」を聞いた時は人前にも関わらず涙が止まりませんでした。お別れするのが嫌で嫌で仕方ありませんでした。

もう1つは、研修に参加した生徒たちや先生方の優しさです。私が体調を崩したときにみんなが声をたくさんかけてくれてすごく心の支えになりました。健太郎先生には日本食レストランの「舞咲」に連れていってもらい美味しいご飯を頂きました。武縄先生には体調を崩して行くことが出来なかったマーケットで買い物をしてもらい、友達へのお土産が出来ました。橋ヶ谷先生や白本さんには体調の面をみて観光の予定を変更してもらい、病院にも連れていって頂きました。私は周りの人に支えられていることを実感しました。他にも色々なことを感じ、学ぶことが出来ました。

この経験を生かして、チェイ小学校の子どもたちのように一生懸命に勉強に励み、人に優しい人間になりたいです。研修に参加させてもらった両親にも感謝の気持ちでいっぱいです。

2年D組 延原佑果



の平和村での子供達との出会いで、私の安易な考え方はガラッと変わりました。

平和村の子供達はとても笑顔で明るく私達に接してくれました。シャボン玉や、マルモリダンスを踊っているときに見せてくれる笑顔は、とても可愛かったです。

こんなこと言ってもなんにもならないのですが、なんでこの子供達がこんなつらい目にあわなければならなかったのだろう、と考えずにはいられません。もう三代も前のことなのになんの罪もない孫の世代まで影響している、ということを見ると、やはり自分はすごく恵まれた環境で生まれ、すごく恵まれた体を持ち合わせたんだなあと強く実感しました。



12月13日から19日までベトナム・カンボジア研修に行ってきました。私がなぜこの研修に参加したかという、自分たちがどれだけ裕福で、どれだけ贅沢で幸せな暮らしをしているかを、身を持って実感し、自分を変えようと思ったからです。

でも実際、現地に着いたばかりの時は日本とたいては変わらない気がしていました。そんなに変わってるかな、日本と違うのは建物の多さくらいじゃないのかな、くらいにしか思っていませんでした。

しかし3日目に訪れた、枯葉剤障害児自立支援

4日目のチェイ小学校、NCCCの訪問では、本当に多くのことを考えさせられました。

チェイ小学校の訪問に関しては、子供達が一生懸命に勉強している姿に心を打たれました。私達の学校は、暑ければクーラーが付くし、みんな一人一人が座れる机、椅子があります。でもチェイ小学校の子供達は扇風機が上の方で回っているだけという、厳しい状態でも、とても集中して勉強をしていました。このとき私は自分がとても甘い、と実感しました。こんな状況でも子供達がこれだけ頑張っているのに、すごく勉強しやすい状況であるはずの私は、この子達よりも全然真面目に勉強に向き合えてないと思いました。だから尚更、子供達の一生懸命な姿に感動しました。

NCCCの訪問に関しては私がこの7日間で一番心に残っています。子供達がNCCCにいる理由は様々でしたが、親の虐待をうけたり、両親とも亡くなっているであるとか、どれも辛いものばかりです。しかしこの状況下でも私達に常に笑顔で接してくれました。心にどんなに辛い傷を負っていても、それを

いつまでも引きずらず、しっかり今を生きている子供達はとても強いなと思いました。

平和村にしても、チェイ小学校にしても、NCCCにしても、私は子供達に何か教えてあげられることをたくさん教えてあげたいと思っていましたが、逆に子供達に教わることばかりでした。親の有り難さや、私が普通に暮らしているということの有り難さ、辛いからといって辛い顔をせず笑顔でいること。多分この研修に参加していなければ、このようなことに自分で気付くことはできなかったと思います。今もっている気持ちをずっと持ち続け、全ての人、物に感謝するというのを忘れずに生きようと思いました。そして、NCCCに居たような子達を少しでも多く、直接何かをしてあげることができなくても間接的な形ででも支援をしたいと思いました。



2年E組 及川貴人



朝の4時45分に集合してさっそく研修旅行へ出発の日がきました。最初は不安な気持ちでいっぱいでした。そして関西空港に着き、いよいよかという気持ちで飛行機に乗りました。そして4時間後ベトナムに着きました。意外と涼しかったです。最初に一柱寺を訪れました、一本の柱で家が建ててあったので、災害があったとき崩れないのかな？と思わず少し心配になりましたが、何年も建っているので大丈夫だ！と願いました。ホーチミンさんのお墓にもいきました、大きい館で警備も万全だったのでさすがベトナムだと感じました。2日目ベトナムの

世界遺産ハロン湾見学をしました。船の中で食べた海鮮料理は上手かったです(笑)食べた後に外に出てみたら奇妙な形をした山々があちらこちらにあり思わず驚愕し、ただただ世界遺産に唖然としました。鍾乳洞に入りました。いろいろな光のオーラが洞窟の中であふれていて、とてもきれいでした。見渡していくと像の岩やいろいろありましたけど、唯一おもしろかったのが女性のシンボルがあったことです。3日目は、ハノイ市内の枯葉剤障害時支援施設に行ってきました。子供たちは、じろっと睨みつけてくるだけかなと思い、少し不安もありましたが、大変元気で活発で可愛くて交流も少しずつ深まっていきました。日本の小学生もあれだけ可愛

かったらいいのになと思うほどでした。そして平和村に行きました。尼さんから仏のネックレスをもらって首にかけたらなぜかパワーが出てきました。赤ちゃんがそれぞれの部屋にいて可愛かったです。その赤ちゃんの中にもエイズに感染している子がいて、もし僕がここで働く人だったら何をしてあげるべきかを考えました。

何があっても面倒は見てあげられるようになる！そう心に決めるよう考えてました。



4日目はカンボジアへ行きました。ショッピングでお金をすべて使い切ってしまったのは痛恨のミスでした。続いて本日2度目のチェイ小学校訪問です。

やはり何度言っても小学生の日本語のうまさには感動しましたし、あと子供たちの物覚えもすごいことにも驚かされました。たぶん僕よりも物覚えがいいと思います(笑)でもその子達も過去に両親からひどい虐待を受けていたっていう話を聞いて、両親はこんなに可愛い子供たちになんてことをするんだろうと思ひ、憤りを感じました。でもその苦難から乗り越えた

子供たちはさすがだ！と感じました。僕も負けてはいられないです。自分も英語を話せるように子供たちの日本語見たくマスターできることを目指します。子供たちのおかげで1つ目標を見つけました。



NCCCで出会った女の子と遊んで楽しんだ事は絶対忘れはしないです！！あの子のおかげで僕のまだ引き出せていなかった覇気がすべて出てきました。なんか途上国で覚醒した気分でした(笑)けど夜の8時にお開きになった時本当に寂しかったです。

3週間、NCCCにいたい気分が収まらず、今でも気持ちが少し憂鬱になってます。日本に帰ってもこの研修の一週間の思い出は忘れないです、絶対に！！！！

カンボジアの子供たちが商売しているのを見てひとつ思ったことがあります。日本のニートや引きこもりの人たちもカンボジアの商売人を見習って、自ら働こうという積極的な心を持ってほしいです。

一言武繩先生へ、あまり積極的に話しできなくてごめんなさい。けれど僕の事をずっと気にしてみてくれた事には、感謝します。一週間ありがとうございました！！！！

2年E組 北真紗子



今回この研修旅行で私は世界にあるいろんな現実のことを何も知らずに生きてきたことを思い知りました。自分が幸せに便乗して当たり前のように生活しているのが、とても恥ずかしくなりました。そして、一生懸命生きて行こうと思いました。

この研修旅行で、心に引っかかっている事があります。それは、子供たちについての事です。

私たちが行った観光地のほとんどで、物を一生懸命売っているのは子供たちでした。彼らはまだきつとたくさんの可能性を背負っているはずなのに、貧しさから、そうせざるを得ない現実を見ました。また、枯葉剤障害児支援施設では、戦争と全く関係のない子供たちが傷跡を引き継ぎ背負っている姿に悲しくなりました。もし戦争なんてなければ、彼らがあのような運命をたどらなくてよかったのかと考えると、人が人に対してした行為が恐ろしくて、戦争があることに憎らしさと共に悔しさを感じました。ストリートチルドレンを保護するお寺では、大人の勝手な都合や無責任さ、自分の都合がよくなると子どもを殴る親の自分勝手さに憤りを感じました、そして、このような状況下に置かれた子どもに、誰も手を差し伸べてくれない世の中の現実を知り、何よりあんなに素敵な笑顔を見せてくれるその子たちが私たちと一緒に生き方をしていないことを実感し、この子たちの生き方がどうして世の中にとって他人事のことなんだろうという途方もない疑問と、わたしのちっぽけな力ではどうしようもない無力感を感じました。



チェイ小学校では子どもたちみんなが何事にも一生懸命取り組む姿に胸を打たれました。小学校の子どもたちにとって、学ぶことはチャンスを手にするための希望なんだと直感でわかりました。日本語を通して子供たちが一生懸命チャンスを掴もうとしている姿と自分の今までを天秤にかけたとき、何も言えなくなってしまう。なんで自分はこんな努力ができなかったんだろうと、今までを後悔しました。

またベトナム・カンボジアの人たちとは言葉は通じ合うことができませんでした。しかし、心は通じ合えたのです。人と関わるのがこんなに嬉しい事だったのだと感動しました。

私は、たくさんのことを教えてくれたベトナム・カンボジアの子どもたち、発展途上国への旅行を心配しながらも私の願いをきいてくれた親、いっぱい、いっぱい迷惑をかけてしまった周りの方々に、少しでもいいからお礼がしたいです。

ずっと小さい頃から看護師になりたいと思ってきました。将来、この経験を活かして、思いやりのあ

る看護師になりたいと思っています。また、国際支援団体に入り、少しでも発展途上国の子どもたちの力になりたいと考えています。

今回このベトナム・カンボジア研修旅行に参加して本当にかげがえのない経験をすることができました。



2E野瀬ゆかり



12月13日から19日まで学芸館の生徒21名と引率の先生2人でベトナム・カンボジア研修旅行に行ってきました。

みんなで研修の準備をし始めた10月から11月、ダンスや準備がなかなか進まなくて心配で日に日にイライラして正直もう行きたくないと思っていました。

出発の日、不安と期待を抱えてベトナムへ飛びました。水上人形劇を見たり世界遺産のハロン湾クルーズをしたり伝統的な文化や自然の美しさを見て素晴らしく思いました。ベトナム最終日には枯葉剤障害

児施設に行って交流をし、戦争や枯葉剤の恐ろしさを感じました。あの子たちは枯葉剤を直接うけてないのに障害を持って産まれてきて、かわいそうと思ったらいけないのかもしれないけどとてもかわいかったです。でも交流をすると障害を感じさせないほどすごく明るくて、一緒に遊んでとても楽しかったです。



ストリートチルドレンを支援しているお寺にも行きました。そこには家がない人、家族に追い出された人、両親に捨てられた子供たちや、さらに生後5日の赤ちゃんも保護されていました。家庭の事情がどうであれ、産まれてくる子はなんにも悪くないのにそんな小さな子を捨てるのは残酷すぎると思います。その子供たちはすぐになつてくれてとてもかわいかったです。ばいばいするとき、なんか悲しくて大泣きしてしまいました。

そしてカンボジアへ。チェイ小学校へ訪問して睦日本語学校の授業を見学させていただきました。小学生の子供たちは一生懸命に同じ日本語を何回も何回も練習していました。その一生懸命にわかろうとする姿勢にとても感動しました。そして、私たちのために日本語で『生きてこそ』を歌ってくれて涙があふれてきました。

そのあとすぐにNCCCIに行って交流をしました。そこには両親に捨てられた子供たちがたくさん保護されて



いました。みんなとてもフレンドリーですぐに仲良くなってゴミ拾いやおいかけっこをして遊びました。外が暗くなるまで踊っていよいよ別れの時。私は「帰りたくない！残る！」って言って大泣きしてしまいました。バスの中でみんなが見えなくなるまで手を振っていました。



他にも菜種油工場の見学をしたりアンコールワットを見学したりと美しいものをたくさん見させてもらいました。

この貴重な体験がたくさんできた研修で感じたことはたくさんあります。同じ人間なのになぜこんなに私たちと差のある生活を送る人たちがいるのかということをも強く感じました。交流したベトナムやカンボジアの子供たちは私より体は小さいのになんだかとても大きな人に見えました。お金がなくても子供たちの笑顔はとてもキラキラしていました。これは現地に行った人ならよくわかると思うけど、ベトナムとカンボジアは発展途上国ではあったとしても中身はとても美しい国です。

私たち日本人がどれだけ贅沢で、どれだけ幸せな生活ができているのかを肌で感じる事ができたとてもいい研修でした。

こんな貴重な経験をさせてくれた親、先生方にとっても感謝しています。これからもいろんなことに感謝して生活していきます。そして今、自分にできることは何なのかももう一度考えてみたいと思います。最初は行きたくないと思っていたこの研修旅行。行ってみてわかりました。本当に行ってよかった。いろんな出会いに感謝。

2年E組 山下彦星



今回の1週間の研修旅行に行かせてもらいとても勉強になりました。

ベトナムの枯葉剤障害児支援施設の平和村、ストリートチルドレン自立支援団体のお寺、チェイ小学校、NCCC…。以上の4つを訪問し思い感じた事は、まず、どの施設の子供たちはみんな元気で楽しそうにすごしていました。

自分はいつも少しでも嫌な事があれば文句を言ってばかりでした。ですが子供たちの姿を見てどれだけ楽をしていたのかと凄く感じました。



次に子供たちは何事にも1つ1つ一生懸命だったこと…。例えばチェイ小学校では授業をもの凄く真面目に取り組んだいたことに驚きました。

わからなくてもわかろうとする姿勢や途中でなげだしたりする子供が1人も居ませんでした。

それを見て自分もみならおうと思いました。わからないからといって理解すらしようとしないような事をしないと思います。子供たちに教えるどころか教えられてしまいました…。行くときは楽しんでもらおうって感じだったんですが、逆に楽しませてもらいました。そして、

楽しんでもらおうといろいろな準備をするのは大変でした。ですが、それ以上の子供たちのよろこぶ笑顔を見て凄く嬉しかったです。どこに行っても笑って近くによってくる子や自分が近寄り言葉は通じなくても、心を開いてくれる子。傍から離れない子。短い時間の間に仲良くなり、バイバイするときには、本当に嫌で涙が溢れました。他の場所どこに行っても、物売りの子供たちがいた…その子達を見て、自分が日本に産まれたことだけでも、贅沢に思えました。それらのことから、自分の贅沢、幸せ、等を凄く実感しました。今回の研修旅行に行けたこと、本当に良かったと心から思います！



これから、施設の子供がちょっとでも減って欲しいです。そのためには、今の世界のことを、自分を含めいろんな方々に、もっと知ってもらいたいですそのために今回の話を自分のまわりの人に、話たりしようと思います。

とにかく、自分は今、学芸という学校で、一生懸命勉強し、少しでも将来に近づくためチェイ小学校の子供たちに負けないように、1つ1つ集中して行きたいと思っています。

今回の研修旅行に行かしてもらい、お世話になった

先生がた、ガイドさんたちに本当に感謝します。
そして、大金を払い行かしてくれた母親にも感謝します。

2年G組 山本 晶弘



僕は、日本と外国との違いを知りたくてこの旅行に参加しました。

最初は友達ができるか心配でした。でも僕たちから声をかけていき、段々と友達の輪が増えていきました。タイの洪水で行けなくなり、初めてベトナムに決まった時、本当に大丈夫か心配しましたが今ではこの研修でよかったんだと思っています。

最初のベトナム観光はお寺に行ったり、王様の墓の建物を見学したりしました。一番良かったのが一柱寺というお寺です。言葉どおり1つの柱で支え、木造の建築になっていました。

また、ハノイ市内にある枯葉剤障害児施設「平和村」に行って子供たちと交流をしました。シャボン玉や折り紙で作ったカブトはあまり人気がありませんでしたが、一緒にボール遊びやブロックなどをして喜んでくれて良かったです。次に、ストリートチルドレンに行きました。そこでは小さい子供たちがたくさんいました。ダンスの時にみんなと一緒に踊れ、お年寄りの方は手拍子をしてくれ、みんなの顔から笑顔が溢れていて、ものすごく楽しかったです。



カンボジア観光では、HG睦日本語教室のバラ組の授業を見学しました。子供たちは上手に大きい声で言っていました。また、名前を一生懸命覚えてくれました。最後には生徒みなさんがKiroroの「生きてこそ」を歌ってくれ、本当にカンボジアに来て良かったと改めて思いました。

また、世界遺産のアンコールワットを見学し、そこではたった1ドルを稼ぐために、子供たちが僕たちのほうに来ました。それを目の当たりに感じたのが、お金のありがたみが物凄くわかりました。

この7日日、楽しみや悲しみの連続でしたが内容の濃い研修旅行になりました。今後の学校生活に少しでも役に活かしていきたいです。

本当にみんなありがとう、そして、お疲れ様でした。



2年V組 安田健人



僕は12/13からベトナム、12/15からカンボジアに研修旅行に行ってきました。1日目は朝3時に起きて西大寺バスセンターに集合し、3時半かけて関西空港に行き、それから5時間35分かけてベトナムのハノイに到着しました。それからハノイ市内を観光したのちレストランでご飯を食べました。ベトナム料理を始めて食べた時かなり抵抗がありました。特に味の無い餅みたいなコロッケはビックリしました。それから伝統芸能水上人形劇を見て1



日目を終わりました。2日目はハロン湾クルーズに行き、鍾乳洞を見学しました。行き帰りのバス移動が長くてこの日はかなり疲れしました。3日目はハノイ市内の枯れ葉剤障害児支援施設を訪問しました。そこでは昔の人々が起こした戦争の被害がまだに残っていました。しかし、その子供達はとても元気で常に笑っていました。小さな事でイラついている自分がとても情けなくなりました。



4日目はカンボジアのチェイ小学校とニューチャイルドケヤセンターに訪問しました。そこでは一生懸命日本語の勉強をしていました。僕は、子供達を楽しませる事を目標にして訪れたのに逆に楽しませてもらいました。子供達が僕達のために『生きてこそ』を歌ってくれたり僕の少林寺の真似をしてくれたりした子供がいて本当に楽しかったです。この7日間は僕にとって一生の思い出になったし、こんな体験はなかなかない経験が出来て本当に良かったです。正直僕はこのベトナム・カンボジア研修旅行はあまり気が進まなくて行く前は友達もいないし、半強制的に親に行かされました。でも今は本当に行って良かったと思うし、新しく友達がたくさん出

来て本当に楽しかったです。最初は誰とも話さずに昼休みに集まるのが辛かったのに最終日には解散するのが辛かったです。こんな経験をさせてくれた親や先生や添乗員さんやガイドさんやベトナム・カンボジアの子供達に感謝したいです。この1週間本当に心に残る体験ができました。ありがとうございました。